

使徒パウロが聖霊によって、ピリピ教会に宛てて書いています。

**ピリピ 4:14-16**

14 それにしても、あなたがたは、よく私と苦難を分け合ってくれました。

15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、福音を伝え始めたころ、私がマケドニアを出たときに、物をやり取りして私の働きに関わってくれた教会はあなたがただけで、ほかにはありませんでした。

16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは私の必要のために、一度ならず二度までも物を送ってくれました。

一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、この時間、あなたが私たちの心を落ち着かせ、思いを静まらせて下さい。

あなただけができる方法で、私たちをあなただけに向けさせて下さい。

そうすれば、あなたが御言葉を通して私たちのいのちに語って下さる事に集中し、聞く耳を持つことができます。

そのために、私たちはここにいますから。

私たちは飢え渴いています。それを満たすことができるのはあなただけです。

主よ、どうかお願いします。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は、“与える”という大変繊細なトピックについてお話したいと思います。

なので、私たちは頭を垂れて目を閉じますから、お望みなら退席しても構いません。

具体的にお話しするのは、「なぜ与える者は大きな祝福を得るのか」

与える者とは、迷い遠ざかっている人を御国へ導く福音宣教の働きのために、経済的サポートをする人のことです。

さて、進めていくにあたり、私は率直に、心開いて皆さんにお話ししなければなりません。

これは、牧師である私としては、非常に難しい説教です。

お金の話をする時は、いつでも利己的に聞こえてしまうから。

「では、今から係りの方が前に立って、十一献金を受け取ります。」

実は私たちの教会は、他の教会で慣習として行っているような十一献金（それは何も悪くはありませんよ。）はしていません。

私がここに初めて来て牧会し始めた時、主の導きではっきり教えて下さったことの1つが、それをしないということでした。

箱を1つだけ置いておく。

事実、郵便受けから始めたんです。何人かの人は覚えてますよね。

家に釘で取り付けている鉄製の郵便受けみたいなもので、蓋を開けて郵便を入れられるようになっており、私たちはそれを“アガペーボックス（無償の愛の箱）”と呼びました。

それをテーブルに置いて、脇に備えておく。

それだけです。

私たちは今まで一度も献金を頂いて来ませんでした。

「頂く」と言うべきではありませんね。

チャック牧師はもっと良い言い方を教えて下さったから。

「献金を頂く」と言うと「金をくれ!!!」のようですが、そうではありません。

もっと牧師的に言えば「献金を受け取る」ですが、私たちは未だかつて、それをしたことはありません。それなのに、この神の教会で、神の人々である私たちに、神がして下さったことを見て下さい。

ただ私はお金に関して、重大な問題を指摘しなければなりません。

なぜなら、多くの牧師が、「常にお金のことを話題にしている」と批判されているから。

聖書の章から章、節から節を説教する中で、お金について話すのは、唯一御言葉がそれを語っている時だけです。

聖書が扱っている時だけ語る。

それが今日のテキストの御言葉。

パウロは与えるということについて、実際大変オープンに、率直に語っています。

一部の人にとっては驚愕でしょうが、御言葉はお金についてたくさん語っているのです。

私は“財政に関しての豆知識”を、4つまとめてみました。

聖書がどれほどお金と財産に関して言及しているか、特に、救い主自身の発言に関することです。

豆知識の1つ目。

マタイ・マルコ・ルカの各福音書の中では、6節毎に1度、何らかの形でお金について言及している。

豆知識の2つ目。

これは興味深いです。

イエスが教えた29のたとえの内、16で（これは半分以上、55%にあたる）お金と財産を扱っている。

豆知識の3つ目。

聖書のおよそ500節は祈りに関することで、驚くことに、500節以下が信仰に関すること。

もっとあるはずだと思った人もいるでしょう。

しかし、お金に関する事柄は2000節以上ある。

豆知識の4つ目。

イエスは天国と地獄についての教えの合計回数よりも多く、お金と財産について教えた。

言うまでもありませんが、敢えて言うと、聖書はお金についてたくさん語っているのです。

パウロは今日のテキストで、救い主の教えの中でも、特に与える祝福に関する事を忠実に繰り返しています。

彼は**使徒 20:35**で、「**受けるよりも与える方が幸いである。**」というイエスの言葉を引用しました。

これを信じますか。信じなさい。これは真実です。

あなたが与えるとどうなるでしょう。

神がその証人となり、大いに喜び、祝福し、それゆえ、あなたは祝福されるのです。

それがこの箇所に表されていて、パウロはピリピのクリスチャンに対し、犠牲を払って与えてくれたことに感謝して締めくくっています。

そうすることで、彼は私たちにピリピのクリスチャンを思い起こさせ、「なぜ与える者がそんなに祝福されるのか」を示しました。

与える者が大きな祝福を得る理由 ①

**14 それにしても、あなたがたは、よく私と苦難を分け合ってください。**

『与える者は称賛される』

イエスは、私たちが与えるものに目を留められます。

私が意図することが分かりますね。

イエスが弟子たちと一緒に、神殿にいた時のことを思い出して下さい。

そこには宗教の指導者たちがいました。

興味深いことに、神殿での献金は、硬貨を鉄製の入れ物に投げ入れ、その音の大きさをいくら献げたかが分かるというものでした。

彼らが投げ入れたのは、大きな音を立てます。

この人たちは皆、自分が投げ入れる金額がどんなものかを人に分からせたかったのですよ。

その時、やもめが来ます。(マルコ 12:41-44) (ルカ 21:1-4)

彼女が投げ入れたのは、愛情を込めて書かれています「持っている全て」でした。

それは1セントの価値もなかったと言う人たちもいます。

1セント(約1円)ですよ！

もし私が1セントを落としても、拾うためにかがむことはしないでしょ。

今では、25セントでも拾うかどうか分かりません。

若い頃と違って、体が痛むのです。

私の問題はさておき、とにかくやもめが来て、そうして、かすかな音がした。

彼女が何を献金したのかさえ分かりません。

でも、皆には分からなくてもイエスは知っていて、それを指摘されました。

弟子たちを呼び寄せ、「あれを見ましたか。」「はい、見ました。」

「興味深いでしょう。」「はい。あの人たちはものすごく入れていました。」

「わたしはそんな事を言っているのではありません。」

**皆はあり余る中から投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのです。(マルコ 12:44)**

イエスは彼女を称賛し、目に留められました。

それからこのことを理解して下さい。

イエスはこれを、聖書に書くほどに重要であると見なしたのです。

それによって、後の全世代が、現代の私たちが、彼女について話すようにと。

どうですか。

**皆はあり余る中から投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのです。(マルコ 12:44)**

ある実話です。

これは第三国のことで、記憶が定かではありませんが、献金皿が回されて1人の男の所に来ました。

彼が「皿を下げてくれないか。」と言うのでそうすると、「いや、もっと下げられるか？」

もっと下げると、「地面に置いてもらえないか。」それで地面に置きました。

すると彼は皿の中に両足を踏み入れて、「これが、私が持っている物の全てです。」

非常に興味深いことは、パウロが満足することについて話した後、(14節で)彼らに「よくやった！」と言ったことです。

「あなた方はよくやりました。」「あなた方が与えることは、大変良いことです。」

更に関心を引くのは、「ピリピ教会は与えることにおいて、困難も分け合ってくれた」と言っていること。

新約聖書の原語であるギリシャ語で“分け合う”という言葉は、“Philipsis” (フィリピシス)

Philipsis (フィリピシス) の意味は、胸を押し潰すような重圧が置かれること。

一般的に巨大な岩の形をしたもので、息を吐き出すと押し潰されて、次に吸い込むことができない。

押し潰されるような重圧。

これが、パウロが経験した困難、押し潰され、息ができない重圧を表現するために用いた言葉です。

では、他の教会はどこにいたのでしょうか。

パウロが大変な困難や試練にあっていた時に、ピリピ教会だけが、ピリピのクリスチャンだけが、彼を支えたのです。

しかも彼らは喜んで、一度ならずそうしたのですよ。

私たちが読んでいる通り、その通りをお話していきます。

彼らは心から喜んで行いました。

## Ⅱコリント 9:6-7

**6 私が伝えたいことは、こうです。**

**わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。**

**7 一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。**

**神は、喜んで与える人を愛して下さるのです。**

7 Each of you should give what you have decided in your heart to give, not reluctantly or under compulsion, for God loves a cheerful giver. (NIV)

“Cheerful”（喜んで）のギリシャ語は、“ἠλαρόν”（ヒラロン）（Hilarious/ 陽気でハッピー）

それほど陽気に、喜び溢れて与える。

さて、私たちは衝動脅迫的に消費する人について話したりしますが、神は私たちに、そのように与える者になって欲しいとは思っていません。

「与えなければならない、と感じているなら与えるな。」

こう言われているのを聞いて納得するのは、神にはそれは必要ないということ。

「この放送を続けるために、あなたは今日献げなければなりません！」「痛みを伴うまで献げなさい！」

とテレビに出ている人たちが言うのを聞いても、あなたはそうは考えたり、信じてはいけません。

きっと「神は破産寸前なの？」と思うでしょう。

しかしそういうのは衝動脅迫です。

神はそのように与える人を愛されません。

神はそんな贈り物を必要としません。

ここがポイントです。

神が必要としているから私たちが献げるのではなく、私たちが、献げることを必要としているのです。

神はそのように私たちを創造し、設計しました。

## 与える者が大きな祝福を得る理由 ②

**15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、福音を伝え始めたころ、私がマケドニアを出たときに、物をやり取りして私の働きに関わってくれた教会はあなたがただけで、ほかにはありませんでした。**

『与える者はまれである』

パウロが開拓した全教会の中で、彼の宣教の働きのために経済支援をした教会はどこも、1つもありませんでした。

何が悲しいかと言えば、今も 2000 年前とほとんど変わっていないのです。

与えるクリスチャンとは、言うまでもなく惜しみなく与えるクリスチャンですが、非常に少ない。

滅多にいません。

与えることに関する統計を見れば一目瞭然です。

最近の世論調査によると、クリスチャンで十一献金をしていると言う人は 17%ですが、本当に実行しているのはわずか 3%だけ。

別の調査による、十一献金をしないクリスチャンの理由のトップ 5。

38%が「余裕がない。」

私は言います。「献げないなんて言ってる余裕はない。」

私が忘れられないのは、約 38 年前に信者になった時の、マラキ書の主を試す場面のメッセージ。

**マラキ 3:10**

**十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ。**

**一万軍の主は言われる—**

**わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか。**

「受け取れないかどうか、わたしを試してみよ。」

十一献金のことで、神が人間に「わたしを試してみよ」と言われる唯一の場面です。

ところで補足しておきますが、私は与える（献げる）ことと十一献金を同じ意味で言います。

「十一献金は新約聖書的か、それとも旧約か」「これは律法か」

今日の教会では論争がありますが、ある人は「これは律法の前からある」と言いました。

つまり大祭司メルキゼデクです。

私はそこには触れませんが、自分が長年学び、実行してきた事で、今主と共にいるラリー・バーケット (1939-2003) から学んだ事を話します。

彼はキリスト教的な金銭概念をこのように言いました。

「十一献金というのは最低限だ。」

最低で 10%です。

主に 100%献げることは、そんなに多くはありません。

主は 90%を残して下さるのです。

考えてみて下さい。それは神のお金ですよ。

Ⅱコリントを今読んだばかりですが、収入に比例して献げることに関して。

もし神が、あなたの十一献金に比例してお金を与えるとしたらどうなりますか。おお…

じっくり考えてみましょう。

私も皆さんと同様、気まずさを感じますから。

ところで、本当に十一献金について厳密に知りたいですか。

イスラエル人が献げているのは 30%以上です。

なので、注意した方がいいですよ。

Tithe（十一献金）は文字通り 10%という意味です。いいですか。

ということで、再度私は便宜上、与える（献げる）ことと十一献金を同意語として使います。

それから、恐らく次のことにも言及しておくべきでしょう。

私は初めて献金した時のことを決して忘れません。

請求書を全部広げて、（今は印刷されていますが、大昔のことで）最初に小切手を切りたかったのです。

オンラインバンキングでするかどは別にして。

私はペンと小切手を持ち、献金のために最初の小切手に記入して、自分自身に言いました。「OK…」

「神様、あなたは『試してみよ』と言われました。90%でやっていけるか分かりません。

今まで、100%でも足りたためしがないのですから。



でも試してみます。神様、あなたを試します。」

これら全ての請求書を払えなくなるのは分かっていました。

だけど、最初の小切手を書きました。「〇△××〇△～～」という感じで。

簡単ではなかった。死ぬほど怖かった。

「でも、構わない。」

そうして小切手を書き続け、全ての請求書を支払ったのです。神が証人です。

そしたら、お金が残っている。

計算ミスをしたと思って見直そうとしたら、神が「計算を見るな。それは奇跡なのだ。」

私は十一献金するのが死ぬほど怖かったのに、十一献金しないことが死ぬほど怖くなったのです。

これは、私にとって律法主義ではありません。

これができるのは特権であって、強いられたからではない。

それ以来、ずっと続けています。

そして、それ以来、足りないものは何もありません。

大変な時はありましたよ。

しかし神は、いつだって与えて下さいました。

娘のノエルが亡くなった時、天井まで届くほどの医療費請求書がありました。

覚えているのは、その請求書を広げて主と話した時のこと。「ハロー。」

実際はそうは言わなかったけど、私がどんな風に感じていたかということ、「ああ神様…」

「これらの請求書、見ましたか!?!」

再び神が証人ですが、郵便受けに行くとそこには、匿名の献金が小切手ではなくマネーオーダーで入っていたのです。

その金額は、私が抱える請求書の額とぴったり一致していて、全請求書の支払いができました。

これは神だけができることです。

受けるよりも与える方が祝福される。

私たちが献げるということは、持ち主である神に所有権を渡しているのです。

「私は何も所有する者ではありません。あなたが全ての所有者です。」

「私は、あなたが私に与えて下さった全てのものの管理人です。全てのものはあなたのものだから。」

そして、「90%を残して下さいありがとうございます。今月、それを使うことができます。」

さて、クリスチャンが献げない理由の調査に戻しましょう。

38%は余裕がないから。

33%は債務が多すぎるから。

18%は配偶者が賛成しないから。

15%は（10%という）献金の割合を信じていないから。

5番目は、14%で収支が混乱しているから。

これについて1つお話ししたいことがあります。

私が信者になって間もない頃、ラリー・バーケットのミニストリーのクリスチャン公認財政カウンセラーになり、牧師が、財政カウンセリングに来たあるカップルを私に送ったので、財政及び収支の管理法を記入式のワークシートを用いて教えました。

家賃、車関係、保険などの項目に従って記入し、概算するのです。

最初の項目は、十一献金と他の献金、ささげ物です。

それを記入してカウンセリングに来ることになっていました。  
彼らが来てそれを開くと、いつも決まって、献金の項目には何も書いてありません。  
その他の項目は全部記入してあります。  
私は非常に丁寧に、穏やかに、できる限りの愛をもって申し上げました。  
「最初の項目に何も無いこと、これが、あなた方の問題です。  
最初の項目が正しいなら、他の項目はきちんとなるのですよ。  
御言葉の權威によって、それをお約束します。」

ここから最後の3つ目に繋がります。非常に重要なことです。

### 与える者が大きな祝福を得る理由 ③

16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは私の必要のために、一度ならず二度までも物を送ってくれました。

『与える者は感謝される』

ここでパウロは、彼らが絶え間なく、一貫して与えてくれたことに非常に感謝しています。  
興味深いのは、パウロがテサロニケにいた時の事にも触れていることです。  
なぜピリピ教会への手紙に、テサロニケ教会の事を持ち出しているのでしょうか。  
テサロニケ教会へのあてつけ？

そうは思いません。

パウロはテサロニケの教会でその信者たちと一緒にいた時、言葉にできないほどの苦しい困難を経験しました。

その時、テサロニケにいた彼を誰が助けてくれたかという、ピリピのクリスチャンたちだったのです。

ところで私たちは丁度、パウロがどんなにピリピ教会に感謝しているかを学び終えたところですね。  
約 800 マイル離れたローマの獄中にある自分を支え、贈り物を届けるために、エパフロディトを送ってくれたこと。

皆さん、当時の牢獄というものを理解しなければなりませんよ。

死に至らせるために投獄するのです。

食事なんかありません。自分の問題だから。

「こんな所に来る前に、自分で考えるべきだったのさ！」

あなたを本当に思い、愛してくれる家族や友人や大事な人が、基本的必要を持って行かなければなりませんでした。

「衣服が欲しい？ コートがいるだと？」「ああ。寒いからねえ。体にこたえる。」

「誰かに持って来てもらえ！ 食事も持って来てもらえ！ それはおまえの問題だ。」

それを、ピリピのクリスチャンがしてくれたのです。

彼らは、パウロが最も助けを必要としている大変な時期に、多大なサポートをしたのでした。

あなたが本当に落ち込んでいた時、たとえば経済的破綻とか、そんな困難を乗り越えなければならなかった時、キリストにある兄弟姉妹がいてくれたことを、あなたのために、あなたを助けるためにしてくれたことを、あなたは決して忘れないでしょう。いつも思い出すでしょう。

それが、パウロがここで語っていることなのです。

チャールズ・スポルジョン（1834-1892）がこれに関して言っています。

「恐らくその贈り物は、ローマのお金にするなら、大した額ではないだろう。

しかしパウロは、感謝の手紙をしたためるほどにその事を重大に捉えていて、このような豊かな表現が溢れ

たのだ。」

アダム・クラーク（1760, 1761, 1762?-1832）の言葉は興味深いです。

「そこで教会を開拓しようと奮闘している間、Ⅰテサロニケ 2:9 とⅡテサロニケ 3:7-9にあるように、パウロは働いて、自分の手でその一部を賄った。彼は必要を満たすために仕事をしていた。

テサロニケ教会は、彼を助けることができなかったからである。

ピリピから彼に献金が送られたのは明らかで、テサロニケのクリスチャンも彼を助けるために少しは貢献したが、それは彼らの功績として語られていない。」

別の言い方をすると、「私はテサロニケにいます。テサロニケ教会の人たちと共に。

しかし私を支え、助け、テサロニケで私のためにしてくれたのは、ピリピ教会のクリスチャンたちです。」

締めくくりましょう。

皆さんがこのミニストリーに惜しみなく献げて下さることに、心からの深い感謝をお伝えします。

地元の方たちはもちろん、オンラインで見ている世界中の皆さんにも。

私たちが週単位で、多くの献金やささげ物や、たくさんの寄贈を頂いていることを知っていますか。

宣伝していないにもかかわらず。

実際、献げるためには、その方法を探さなければならないのですよ。

なぜなら私たちはお願いしていないから。

ウェブサイトに行って、Donate（献金）のページを開かなければなりません。

以前は見にくくて、オンラインで献金したくても小切手を送る住所さえ見つけにくかったけど、ホームページを新しくして便利になりました。

私たちには、大いに喜んで、寛大に与えて下さる多くの人たちがいる。

私は皆さんに本当にお伝えしたいのです。

講壇に立つ牧師の中で、今から話すような事を言える牧師はそれほどいません。信じて下さい。

教会として地元の方々も、オンラインの方々も、まさしく皆さんは与える者です。

皆さんは実に寛大で、私は本当に感謝します。感謝しきれません。

もちろん皆さんは主に献げているのであって、私に与えているではありません。

そのために私は皆さんに感謝しています。

敢えて言うと、御国のための経済サポートがどれほど広範囲にわたっているか、私を含め誰も考えが及ばないと思います。

その日が来れば、（それは本当にとっても近いと信じていますが）その時分かるでしょう。

その日、栄光の体で、誰かがあなたに近づいて言うのです。

「主に献げてくれてありがとう。あなたが与えなかったら、私は救われなかつただろう。」

今までに、これに関して多くの書物や詩が書かれて来ました。

天に宝を積む。

私たちは宝を自分で持って行くことはできないけど、間違いなく、前もって送ることができるのです。

それをするのが賢い男と賢い女。

こんな言葉があります。

「あなたが生きている間に、与えることをしなさい。

そうすれば、それがどこへ行くのか、あなたにも分かります。」

祈りましょう。



